



7/7 借しまれつつファイナル開催

きたかみ夏油高原ヒルクライム

第10回きたかみ夏油高原ヒルクライム2024 The Finalは、雨天の下で開催されました。5年ぶりの大会で最後となったレースには、県内外から約370人がエントリー。岩崎運動公園から夏油高原スキー場まで約18kmのコースを自転車で駆け抜けました。

同大会は民間組織・夏油高原活性化タスクフォースの一事業。平成23年に始まり、夏油の魅力発信とスポーツ振興、震災復興も兼ねて開催されてきました。



7/9 5運動部が全国大会へ出場

黒沢尻工高運動部が活躍を誓う

7月21日から開催される全国大会に出場する、黒沢尻工業高校の各運動部選手らは、八重樫市長を表敬訪問し決意を語りました。

ラグビー部は3年連続で7人制の大会へ、陸上競技部（男子砲丸投げと男子5,000メートル競歩）、ソフトテニス部（個人戦ペア2組と57年ぶり男子団体）、ボクシング部（男子ピン・ライトフライ・バンタム級）、ボート部（3種目）は北部九州総体へ出場します。

6/30 染める楽しさを体験

みちのく民俗村でワークショップ

藍を育てながら染め体験ができるみちのく民俗村で、和紙を染めてうちわを作るワークショップが開催されました。染めの基礎を学ぶイベントで、22人が参加。折りたたんだ和紙を赤や青などの染め液に少しずつ付け、開いて現れる模様には笑顔が広がりました。

祖母と一緒に参加した佐々木真緒さん（鬼柳小2年）は「自分の思うとおりに染められた」と、気に入った模様の和紙をうちわに貼り付けていました。



7/9 4年連続5度目の全国大会出場

いわさきレッズ必勝を目指す

第38回全日本小学生女子ソフトボール大会（7月27日～30日・秋田県由利本荘市）に出場する、いわさきレッズの選手らは、八重樫市長を表敬訪問しました。

同チームは6月1日・2日に行われた岩手県予選会で優勝し、4年連続の全国大会への切符を手にしました。千田ゆうか主将（いわさき小6年）は「チームで声を掛け合いながら、みんなが活躍して日本一になって帰ってきたい」と力強く語りました。



まちの話題

市内の話題を紹介

6/16-30

シンポジウムや民俗芸能公演のイベントが目白押し

鬼の館開館30周年記念イベント開催

鬼の館開館30周年を記念したイベントが周年月の6月中、同館を中心に多数開催されました。

16日の大乗神楽大会「大乗の会」では、全33演目中20演目が約10時間にわたり披露されました。作本由香利さん（神奈川県）は「地域の芸能を見ると魂がわくわくする」と、最後まで堪能していました。

23日の記念シンポジウム「民俗芸能と鬼」は、日本現代詩歌文学館で開催されました。佛教大学教授で世界鬼学会会長の八木透氏を講師に、鬼とは何かを考



え魅力を発見する機会としたほか、民俗芸能の発表も行われました。

29日には北上・みちのく芸能まつり GEINO 女子公演、30日には県内の若手による芸能公演が行われ、多彩なステージが繰り広げられました。



6/26 北上チームがワンツーフイニッシュ

県民体育大会ゴルフ競技で快挙

6月24日に行われた、令和6年度（第76回）岩手県民体育大会ゴルフ競技の市町村対抗団体戦（成年男子の部）に出場して好成績を収めた、北上市ゴルフ協会の会員4人は本庁舎を訪れ、市長に報告しました。

同協会から3チームが出場し、うち2チームが優勝と準優勝。同大会での優勝は、協会設立後、初の快挙とのことです。菅野俊基理事長は「若い世代や競技の普及に寄与できればうれしい」と述べました。



6/28 黒北小の児童と地域の安全対策

横断歩道旗入れ組み立て作業

黒沢尻北地区内の横断歩道旗入れ新設・交換のための組み立て作業は、同地区交流センターで行われました。

同地区では、地域と学校の協働活動であるコミュニティ・スクール事業に積極的に取り組んでおり、今回、黒沢尻北小の児童からの「横断歩道が危ない」という声に応え作業を実施。同地区自治振興協議会、地域コーディネーターら指導の下、同校4年生8人が組み立てた横断歩道旗入れは、順次設置されます。

